ゆっパル's のつぶやき～スペシャル版～

鈍感くんと敏感さん

（中野渡）

プロポーズはどちらから？

私たち3人（残念ながら、女性だけ）は、いつものように話に花を咲かせていました。はじめは、「少子化」「結婚をしない若者」などについて話していたのだけれど、これまたいつものように話がちょいとわき道にそれて・・・

「告白は、女性からしてもいいけど、プロポーズはやっぱり男性からして欲しいよね」「そうそう、デートに誘ったり電話をかけたりメール送ったりするのは、女性からでもいいけどね」

「ほんと、ほんと。プロポーズをきちんとしてくれるかどうかって、けっこう決め手かもしれない」

私は思わず、「どうして？」と真面目な顔で言ってしまいました。そのあと、「そんなこと、どっちからでもいいんじゃないの」気の弱い（？）私には、これだけ言うのが精いっぱいでした。

さて、それから2カ月ほどしたある夏の終わりのこと。偶然にも、若い既婚女性たちと同じテーマで話をする機会がありました。

「私の方から、結婚しようって言ったの」と一人が即答。

もう一人の女性も、「私も。どっちから言ってもいいことだと思うけど、私の場合、私の方からサッサといわなくちゃ、と思って」とのこと。

彼女たちの思いきりのよさとやみくもに慣習にとらわれない柔軟さに、すがすがしさを覚えました。

テレビや雑誌などではなぜか、「プロポーズは、男性から女性にする」というパターンばかりのような気がしませんか。だから、ついそれが当たり前のような気がしてしまって、プロポーズに対する先入観もしくは固定観念（男性から女性にするものというような）を持ってしまっているのでは？

でも本当は、どっちからのプロポーズでも構わないはず。一番大事なことは、その人が本当に自分の人生のパートナーとしてふさわしいかどうかっていうことですから。（秋田）

テーマは「夫唱婦随」

今年の私のテーマは「夫唱婦随」。昨年も同じ目標でしたが、いつも反省しっぱなし。でも、今年はいらつくこともなく、平穏な日々を送っています。その秘訣は、相手の喜ぶ笑顔を思い浮かべながら作業する。これが苦ではなく楽しさをもたらしてくれます。不満をぶつける前に相手の想いを汲んで理解しようとすると気持ちがとっても楽になってきます。従うのではなく心を合わせる。そうすると相手もこちらを気遣うようになります。してやったりです！

お母さんが笑うと子どもも笑顔。笑顔の子どもがいっぱいだと学校も楽しい。社会が楽しい。会社が楽しい。お父さんも楽しい。

世のパパさん達―何をすべきかわかりますでしょ？

（山田）

先日、アスパムで開催されたパネルディスカッションに参加しました。発表者は、多種多様な悩みや怒りなど様々な辛苦、そして喜びなどの体験談を話していました。仕事をしていた頃の自分と変わらないなと感じました。

人前が苦手で緊張してしまう私には、こんな風に堂々と話せるのはいつのことだろうと、頭が下がるばかりです。強気な態度で生きる、耐える、仕事をはじめ、家庭や地域生活でも重要なことですね。ここで一句・・・

「労（いたわ）りの男女が握る光る汗」

（木村）

●ゆっパルのご意見・ご感想をお待ちしております。

編集　十和田市男女共同参画市民情報誌「ゆっパル」編集委員
（秋田美智子、木村奈生美、中野渡明美、山田美保子）
イラストレーション　中野渡明美

発行　十和田市総務部総務課広報男女参画係
TEL 51-6702（直通）FAX 22-5100